

【連載】

老健仕事人  管理栄養士

# ご利用者の食を支える 老健栄養士ができること

## [第2回]



藤田洋子<sup>[ふじた・ようこ]</sup>  
介護老人保健施設ろうけん始良<sup>あいら</sup>  
(鹿児島県)

### 入職したばかりの頃は…

私が高齢者施設で働くのは「ろうけん始良」が初めてでした。入職時は栄養ケアマネジメントに必要な「栄養ケア計画書」の作成手順もおぼつかない状態で、毎日どのように仕事をしていただろうかと、いまとっては不思議でなりません。不慣れでも後述するような、ご利用者のケアに関する会議が次々と目白押し。初めは書類を作成することに必死だった私が、現在ではこれらの会議をとっても有意義だと感じています。そう思えるようになるまでの経緯を紹介したいと思います。

### 「わからない!」を克服するために

右も左もわからない状況でも、必ず出席していたのが、各入所者のケアカンファレンスと入所継続判定会です。

ケアカンファレンスは、入所者ごとに基本的に3か月ごとに行われ、参加者は医師・看護師・介護職・リハビリ専門職・ケアマネジャー・管理栄養士、およびご家族です。ご家族と入所者のご意向をもとに、日常生活動作や歩行、食事など生活に関わる目標を定め、多職種が情報を共有し同一目標に向かって生活を支援することを目的としています。

一方、入所継続判定会は、ケアカンファレンスの参加者の他に、支援相談員が加わります。入所者の現在の状況を報告し、課題を見つけて改善策を話し合うことで、ケアプランの見直しや入所継続の必要性を検討することを目的としています。入所者のことを知ることができるよい情報交換の場です。

初めの頃は、入所者のお名前と顔が一致せず、施

設内での様子を把握できていないため、何が課題かもわかりませんでした。会議についていけず、不消化のまま終わることも多々ありました。発言を求められても、血液検査データや毎月の食事摂取量、体重などの個人記録表を読みあげるだけで精一杯でした。

### 会議は大切・有意義!

そんな状況からできるだけ早く脱出しようとまず取り組んだのは、ミールラウンドの回数を増やすことでした。毎日施設の食堂に赴き、入所者の食事摂取状況を自分の目で観察し、会話をします。また、介護職や看護師とも話し、情報を得るようにしました。

3か月が過ぎようとする頃から、摂食の様子が徐々に把握できるようになり、会議で栄養状態や食事に関する質問がきても、書類に頼らず自分の言葉で返答できるようになっていきました。

これらの会議には多職種が出席するため、一人ひとりの入所者について、さまざまな角度からの情報が得られ、課題を解決するためにはどうすればよいのか、効率的に検討することができます。また、わからないことを気軽に質問できるよい機会です。栄養や摂食以外の視点をもつことにより、結果的に、栄養マネジメントにおける課題や目標が見つかりやすくなりました。このことが、書類作成の時間を短縮し、業務の円滑さにつながっていると気づき、「会議は大切で有意義!」と感じるようになりました。

### 咀嚼・嚥下に関する会議

もう1つ、栄養士にとって重要な会議があります。経口維持に関する会議です。私は、咀嚼・嚥下機能